



## 世界経済のトレンド丸解り！今週の注目レポート



このコーナーでは、フィナンシャル・インテリジェンス部に配属された新人のルミが「世界経済の今・そしてこれから」を把握するために是非読んでおきたい、今週の重要レポート・ニュース記事を紹介します。（原則月曜日更新）

「部長、おはようございまっす！！！」

「榎原君、おはよう。今日は元気だね。」

「はいー。もうすぐクリスマスですからね♪」

「榎原君、浮かれてないで、ちゃんと仕事もしてね」

「わかってますよー。私は部長と違ってバブル世代ではありませんから～。

今週のレポートは、こちらです。」



## 今週の注目レポート・重要ニュース

外人投資家はクリスマス休暇入り 先週後半の株高の地合いを引き継ぎ堅調な展開が続くかどうか  
が注目

## ■経済指標や重要イベントなど

## 【1.米国】

先週の米国市場は上昇しました。週前半は下げ止まらない原油価格を受けて下落が続いたものの、FOMCの結果を受けてFRBが利上げを急がないとの見方が強まり週半ばから上昇に転じました。17日と18日の2日間で700ドル余り上昇したダウ平均は一週間で3%の上昇となっています。今週は24日が短縮取引で、25日は休場です。

## 1-1. 住宅関連指標

15日発表の12月の全米住宅建設業協会（NAHB）住宅市場指数は57と前月の58から低下し市場予想を下回りました。また、16日に発表された11月の米住宅着工件数は年率換算で前月比1.6%減の102万8000戸と3カ月ぶりに減少し市場予想を下回り、着工件数の先行指標となる建設許可件数も前月比5.2%減の103万5000件と市場予想を下回りました。今週は22日に11月の米中古住宅販売件数が、23日に11月の米新築住宅販売件数が発表されます。

## 1-2. FOMC（連邦公開市場委員会）



17日の米連邦公開市場委員会（FOMC）で米連邦準備理事会（FRB）は金融政策の先行きを示すフォワード・ガイダンスでゼロ金利解除の時期を巡る表現を「相当な期間」から「忍耐強く」へと修正し、ゼロ金利解除に向けて一歩前進しました。イエレン議長は会見で2015年4月以降に利上げを検討する考えを示しています。

詳細は「米国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント」をご覧ください。

## 【2.欧州】

先週の欧州の主要株価指数は、原油安が嫌気され下落してスタートしたものの、原油価格の下落やロシアの政策金利引き上げによりルーブルの下落が一服したことや ECB の追加緩和への期待、さらに FOMC の結果を好感した買いなどから上昇しました。

### 2-1. ユーロ圏 PMI

16日発表のユーロ圏製造業 PMI は 50.8 と前月から上昇し市場予想を上回りました。

### 2-2. ZEW 独景気予想指数

16日に発表された12月の欧州経済研究センター（ZEW）独景気予想指数は 34.9 と2カ月連続での改善となり市場予想を大きく上回りました。

### 2-3. 独 Ifo 企業景況感指数

18日発表の12月独 Ifo 企業景況感指数は 105.5 となり前月から上昇し8月以来の高水準となり市場予想を上回っています。

## 【3.日本】

先週の日本市場は上昇しました。米国株安を受けて大きく下げて始まった日本市場は週半ばに値ごろ感から切り返すと、FOMC の結果を受けて米国市場が大きく上昇したことから週後半は連日で日経平均が400円前後の大幅高となりました。

### 3-1. 金融政策決定会合

18日から19日にかけて開催された日銀の金融政策決定会合で金融政策に変更はありませんでした。黒田日銀総裁は会見で原油安について「短期的には物価を押し下げる」との見解を示す一方で、「やや長い目でみれば物価押し上げ要因になる」との見方を示しています。



### 3-2. 消費者物価指数

26日に11月の全国の消費者物価指数が発表されます。10月は消費増税の影響を除くと過去に黒田日銀総裁が「割れることはない」発言していた1%の大台を下回っただけに今月も注目されます。

#### 【4.中国】

先週の上海市場は上昇しました。追加の金融緩和や景気刺激策などへの期待から上海総合指数は週末に3,100ポイント台を回復し年初来高値を更新して取引を終えています。

### 4-1. 製造業 PMI

16日発表の12月のHSBC製造業購買担当者景気指数（PMI）速報値は前月比0.5ポイント低下の49.5となり、景況感の改善と悪化の基準となる50を7カ月ぶりに下回りました。

詳細は「中国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント」をご覧ください。

詳細レポートは以下をご参照ください。

- [日本][チーフ・ストラテジスト広木隆の「ストラテジーレポート」](#)
- [日本][シニア・マーケットアナリスト金山敏之の「投資のヒント」](#)
- [日本][フィスコの「週刊マーケット展望」\(ログイン後限定レポート\)](#)
- [日本][J.P.Morgan \(J.P.モルガン\) 社や TIW 社の「アナリストレポート」\(ログイン後限定レポート\)](#)
- [日本][主要日本企業決算カレンダー](#)
- [米国][主要米国企業決算カレンダー](#)
- [米国][米国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント](#)
- [中国][中国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント](#)
- [その他][J.P.Morgan \(J.P.モルガン\) 社の、「マクロ経済レポート ウィクリー・データ・ウォッチ」「グローバル・データ・ウォッチ」\(ログイン後限定レポート\)](#)

## グローバル・マクロ・ビュー（世界経済の基本観）

### 1. 日本（前回からの変更なし）

今後策定される景気対策の内容などに注目。



2.米国（赤字が前回からの変更点）

景気回復鮮明に。短期的には、原油価格と年末商戦動向に要注目。今後は利上げ時期が焦点に。

3.欧州（前回からの変更なし）

ECB が量的緩和に踏み出すかが焦点に。

4.新興国（前回からの変更なし）

中国は、約 2 年 4 ヶ月ぶりに利下げを実施。今後の景気動向等に要注目。

**利益相反に関する開示事項**

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号  
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、  
一般社団法人 日本投資顧問業協会